

財団法人 成長科学協会 主催
第20回公開シンポジウム

子どもの成長・発達と環境の影響

平成19年 6月9日 (土) 13:30~16:30
新宿明治安田生命ホール



プログラム

テーマ「子どもの成長・発達と環境の影響」

司会 高橋桃子 (小田原女子短期大学)

1. 開会あいさつ

2. 演者からの提言

「養育放棄のもたらす発達遅滞と
そこからの回復」

藤永保 (日本教育大学院大学学長、お茶の水女子大学名誉教授)

「心が心になるということ」

吉田弘道 (専修大学教授)

〈休憩〉

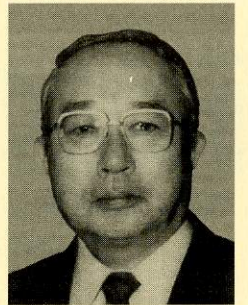
3. 質疑応答・ディスカッション

宮尾益知 (国立成育医療センター)

柿沼美紀 (日本獣医生命科学大学)

4. まとめ

ごあいさつ



財団法人成長科学協会
理事長 入江 實

財団法人成長科学協会は、身体の発育・成長の問題だけでなく心の発達に関しても強い関心を持ち、「心の発達研究委員会」(委員長:長田久雄・桜美林大学大学院国際学研究科教授)を中心として活動を続けております。

この委員会が企画いたします公開シンポジウムも今回で第20回目を迎えました。今回は「子どもの成長・発達と環境の影響」というテーマです。

現在第一線で活躍されているお二人の研究者、藤永保先生と吉田弘道先生にご提言をいただき、養育環境が子どもの発達にどう影響を与えるのか、また、現在の子どもたちの気になる日常の様子などを、分かりやすくお話しいただきます。そして同委員会委員の宮尾益知先生、柿沼美紀先生のコメントを交えながら、質疑応答およびディスカッション、まとめと進めて参りたいと思っております。

司会は、同委員会委員の高橋桃子先生にお願いしました。

是非、多数の皆様の御参加をお待ちしております。

演者からの提言〈要旨〉

「養育放棄のもたらす発達遅滞とそこからの回復」

藤永保

1972年、ある山村で虐待遺棄事件として二人の子どもが救出された。二人は、当時満5歳と6歳の姉弟であり、一家が居住していたお寺の回廊に作られた僅かに雨露を凌ぐだけの小屋に放置されていた、というのが事件の概要である。ともに、身長80cm、体重8kg、歩行なくいざり歩き、発語は姉が数語、弟は0、総合的に見て1歳を大きくは越えない水準という前代未満の発達遅滞状態にあった。演者は、この事例を約20年間に亘り追跡した。この事例につき、1) 救出の経緯と環境条件、2) 救出時の発達状態、3) 遅滞の原因、4) 救出後の処遇、5) 身体発達と運動発達、6) 言語発達、7) 認知発達、8) 社会=情動的発達などを概観し、どのように回復を遂げていったかを資料により説明し、現在の状況に触れる。二人の回復過程に見られた特徴的現象、たとえば体位の初期の飛躍的伸長、言語獲得と愛着関係などを示し、臨界期、愛着の重要性など、人間発達の特異性について述べたい。

「心が心になるということ」

吉田弘道

これまでに、発達障害児、神経症児、青年期・成人期の人格障害者、青年期になった発達障害者に、発達相談、心理療法、コンサルテーションを通して関わってきた。今関心のあるのは、「心が発達するとはどういうことをいうのであろうか」ということである。心の発達とは、一言で言うなら、「まとまった心になること」といったほうがしっくりくるように思える。専門用語では「自己の組織化」というが、心の中の自分という意識が中心になって、自分自身の感覚・知覚、考えや意思・意志、行動、姿勢、情動などを知り、体験し、モニターしながら行動できることである。自己の組織化が発達するためには、子どもの内的状態や主体的な体験を、子ども自身がわかるように子どもに伝える大人が必要である。また、子どものことをよく理解している大人が必要である。当日は、自己の組織化、主体性、理解の組織化、メンタライゼーション、映し返しをkey wordに話をする。

演者

藤永保

ふじなが たもつ ●東京大学文学部心理学科卒業、東京女子大学、お茶の水女子大学、国際基督教大学教授を歴任。現在日本教育大学院大学学長、お茶の水女子大学名誉教授。専門は発達心理学、特に初期発達、認知発達と人格形成。元日本発達心理学会理事長。主著は『発達の心理学』(岩波新書)、『思想と人格』(筑摩書房)、『人間発達と初期環境』(有斐閣)、『発達環境学へのいざない』(新曜社)、『ことばはどこで育つか』(大修館)等。

吉田弘道

よしだひろみち ●早稲田大学大学院修了、こどもの城小児保健部、(財)東京都精神医学総合研究所を経て、現在専修大学文学部教授。臨床心理士、認定心理療法士スーパーバイザー。日本小児保健協会評議員、日本小児精神神経学会評議員。専門は発達臨床心理学。著書は『母子の健康科学』(放送大学教育振興会)、『新世紀の小児保健』(日本小児医事出版社)、『実習保育学』(日本小児医事出版社)、『ライフサイクルと心理臨床』(八千代出版)等。

質疑応答・ディスカッション

宮尾 益知

みやおますとも ●徳島大学卒業後、東京大学、東京医女子医大小児科などを経て、自治医科大学にて助教授、途中Harvard大学神経科研究員、国立小児病院神経科を経て現職。

柿沼 美紀

かきぬま みき ●日本獣医生命科学大学教授。文化間、定型・非定型発達児、チンパンジー・ヒトの比較から乳幼児の社会性の発達を研究。著書に『子どもの「やさしさ」を育む本』。

司会

高橋 桃子

たかはしももこ ●小田原女子短期大学保育学科講師。日本大学医学部付属練馬光が丘病院小児総合診療科及び、杏林大学医学部付属病院小児科臨床心理士。

主催 財団法人 成長科学協会

企画運営 心の発達研究委員会

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-1-16 NP-IIビル
TEL. 03-5805-5370